

新たな歴史に向かって

鳳エリア建替え運動の道 (28)

耳原鳳クリニックの思い出②



耳原鳳クリニックを久しぶりに訪れ、正直「古くて暗いなあ」と言う第一印象を持ちました。経営的にもなかなか厳しい上に、所長として先頭に立って建て替える計画

し、実行しなければなりませんでしたが、耳原総合病院と比べて患者さんとの距離が近いのに加え、職員同士のコミニケーションを取りやすいことに、医師として、所長として大きな魅力を感じました。訪問診療に本格的に関わったのも、初めての経験でした。実際に患者さんの生活の場に訪れ、他法人の多くの職種と協働して患

者さんご家族を支えていく在宅医療は、とてもやりがいがありました。運営方針を管理者の様々なアイデアで練り上げ、それを職員全員で話し実践していけば、目に見える形で結果が出るのも楽しかった。私は耳原鳳クリニックで働けることを、すぐに「とても幸せなこと」と感じるようになった。全職員と健康友の会みはら、そして地域の皆さんの力で、2025年4月に新

しい耳原鳳クリニックが完成し、早くも3カ月以上が経ちました。あのポロポロだった耳原鳳クリニックの建物を忘れてしまいうです。雨が降ればすぐに雨漏りする天井、しょっちゅう壊れて患者さんにもご迷惑をおかけした空調機。あの大変だった日々を忘れず、新クリニックの建物に感謝して、今日も頑張ります。

(耳原鳳クリニック 所長 田端 志郎)

総合病院の急性期機能を強化します

社会医療法人同仁会 副専務理事
耳原総合病院 事務長 吉本 和人

中期事業計画「みみはら2030年の樹」において、耳原総合病院は急性期機能、いわゆる「治す医療」の強化を図ります。



※写真はイメージで実際の建物は異なる可能性があります

病院南西側の隣接地に新たな施設を増設し、堺区で唯一となる放射線治療機の導入に加え、内視鏡室の拡張、心臓カテーテル手術室の増

設、健診センターの拡充を行います。併せて周産期のメンタルヘルス機能の充実を図ります。一生のうち2人に1人ががんになると推計されており、今後、がん手術は減少する一方で、放射線治療および薬物療法は増加すると見込まれています。幅広いがん治療を提供できる体制を整えることで、遠方に足を運ばずとも、地域で安心して治療を受けられる環境を整えます。

緊急胃カメラは、堺市外への搬送が多い現状です。内視鏡室を拡張することで、当院での受け入れを拡大できます。併せて、鎮静での胃カメラの希望に、より応えることが可能となります。また、心臓カテーテル手術室の増設により、現在応えきれない心疾患手術の受け入れが可能となります。



長崎会場のような

2025年原水爆禁止世界大会

被爆から80年 原水爆禁止世界大会で受けつぐバトン

被爆から80年を迎える今年、原水爆禁止世界大会が8月4日から9日まで広島と長崎で開催されました。

広島には10人が参加し、平和記念資料館を見学しました。「被爆80年のつどい」では、被爆直後の惨状や差別の体験が語られ、参加者からは「被爆の実相を知れば核武装を肯定できない。多くの人に伝え続けたい」との感想が寄せられました。

長崎には23人が参加しました。7日の特別プログラムでは被爆翌日の写真や被爆者運動史が紹介されました。9日の「ナガサキデー集会」には3700人が集いました。11時

2分に黙とうが行なわれ、被団協・田中代表委員が幼少期の被爆体験を語り、核廃絶を自らの課題として考えるよう訴えられました。集会では

「長崎からのよびかけ」を採択し、核兵器禁止条約を希望の光と位置づけ、日本政府に署名・批准を迫るとともに、2026年NPT（核拡散防止条約）再検討会議に向けて国際的な共同を広げる決意を確認しました。参加者からは「被爆者の生の声を聴き平和の大切さを実感した」

「家族を失った悲しみの言葉に胸が締めつけられた」との感想がありました。今回の広島・長崎への参加は、皆さんからのあたたかいご支援があつて実現できました。本当にありがとうございました。これからも活動を続けていきますので、引き続きのご協力をよろしくお願いいたします。

(耳原総合病院 搦頭 亮治)



広島会場に参加

「研修医育成」に皆さまの「声」を

右のQRコードからアンケートへのご協力をお願いします。
(耳原総合病院研修委員会)

